

世界会議の開催結果と今後の ITS について

石 太郎

(日本組織委員会事務局長)

はじめに

ITS 世界会議愛知・名古屋 2004 が、昨年 10 月 24 日(日)に終了した。1999 年よりアジア太平洋地域内の合意活動、地元と連携した誘致活動、2000 年 11 月のトリノ世界会議後の BOD 会議における承認・最終決定、日本組織委員会設立、その後の企画活動を経て、ITS 関係者が長年総力をあげて取り組んできた第 11 回目の「2004 年 ITS 世界会議」は無事終了した。日本では 2 回目となるこの世界会議は、国内外から高く評価され、セカンドステージに入る ITS に新しい潮流を作ることができた。ここでは今回の世界会議の内容を振り返り、今までの取り組みを検証し、今後の ITS の方向について考察する。

2004 年 ITS 世界会議の結果

日本組織委員会は、これまで 10 回の世界会議の経験を踏まえて、今後の世界会議に新しい潮流を作ることコンセプトとして企画を煮詰めてきた。「市民参加」はそれを総称する今回の世界会議のキーワードであり、狙い通りの結果となった。「市民参加」を導入した背景には、ITS がカーナビゲーションや ETC の拡大で、日常生活の中に浸透しつつある一方で、ITS のわかりにくさ、次の ITS ビジネスの閉塞感があり、今回の世界会議を機会に打開を図りたいという、ITS 関係者の願いがあった。

開催理念は「飛躍する移動—— ITS for Livable Society」のテーマの下、市民参加、ITS 体験型、最先端の IT & ITS の発信、オールジャパンの取り組み等を標榜

世界会議概要

1 開催期間・開催会場	2 結果
10月18日(月) 開会式(愛知芸術文化センター)、ウエルカム・レセプション、VIPディナー等	①会議登録者: 5,794 人(目標 5,000 人)
10月19日(火)～22日(金) セッション、展示会、ショーケース・テクニカルツアー、閉会式、催事(コンGRESディナー、展示会、レセプション等)、ゲストツアー等。 名古屋国際展示場(ポートメッセなごや)を中心に実施、また、催事は、個別会場でも実施された。	②展示会来場者: 61,394 人(目標 50,000 人)
10月19日(火)～24日(日) 展示会(名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや))	③ ITS 関連行事参加者: 1,103,200 人(目標 500,000 人)
	注 1) ③の内訳; ITS フェスティバル 61.5 万人(オアシス 21 にて実施)、全国イベント 48.5 万人 注 2) 10月20日は、台風 23 号のため、すべてのイベントを中止 注 3) 参考数値
	<ul style="list-style-type: none"> ・ITS ワールド入場者: 24,267 人、歩行者支援 ITS 体験参加者: 5,747 人 ・ITS テクニカルツアー (20 コース): 537 人 ・出展企業・団体数: 250 (国内 144、海外 106) ・参加国数: 53 개국(日本、展示参加者を含む) ・海外登録者: 1,002 人

し、世界会議企画の具体化を図った。従来の5千人レベルの世界会議に対して、会議登録者5千人、展示会来場者5万人、全国のITS 関連行事参加者50万人という、従来より10倍、100倍の高い目標を掲げ、新しい開催規模達成への挑戦を行ってきた。

その結果、台風により1日中止したにもかかわらず、全て目標を達成することができ、国内外から今回の世界会議の成功を象徴するものとして高い評価を受けた。このように評価された、今回の多様な内容の世界会議の概要について次に示す。

終了後、国内外の関係者から、台風の影響があったにもかかわらず目標達成したこと、内容が充実し見応えがあったこと、ITS の理解が深まったこと等多くの評価のコメントが寄せられた。また、このように多くの方々が参加できた背景には、関係者のご努力により、あおなみ線が世界会議に合わせて開通し、交通アクセスが飛躍的に向上したことも貢献している。これらの評価を踏まえて、今回の世界会議の特徴について以下にまとめる。

1) 開会式、閉会式の盛り上がり

10月18日愛知芸術文化センターにて行われた開会式には、秋篠宮同妃両殿下のご臨席を賜り、また展示会にもご高覧され世界会議に重厚感がでた。開会式の登壇者は次のようになっている。開会宣言・中原副会長、主催者歓迎挨拶・豊田会長、秋篠宮殿下のおことば、日本国代表挨拶・蓮見国土交通副大臣（小泉内閣総理大臣代理）、日本国ITS代表挨拶・安富国土交通審議官（北川国土交通大臣代理）、米国ITS政府代表挨拶・ランギNHTSA 局長、欧州ITS政府代表挨拶・ツェプター駐日欧州委員会代表部大使、地元代表挨拶・愛知県神田知事/名古屋市長、アジア太平洋ITS政府代表挨拶・北京市吉林副市長、欧州ITS組織代表挨拶・ヒューズERTICO 副会長、米国ITS組織代表挨拶・ベアITSアメリカ会長、記念スピーチ・綿貫衆議院議員（前衆議院議長）/小枝自動車工業会会長。



開会式（10月18日：愛知芸術文化センター）



展示会来場者5万人達成記念

開会式では、開始前、中間、終了時に山本寛斎氏演出によるエンターテインメントが行われ、気分転換が図られた。最後には壇上で登壇者を交えテープカットが行われた。続いて、オアシス21にて、寛斎氏演出の屋外イベントが行われ、幅広い開会式演出となった。屋外イベントでは、トヨタ自動車のご協力によるトランペットを吹くロボットと風船の演出が披露され、手筒花火等とともに参加者にとって深く印象に残る開会式演出となった。

閉会式は、10月22日（金）ポートメッセなごや会場にて行われ、豊田会長による挨拶、池内教授（BOD 議長）の総括報告、森川教授（IPC 議長）の論文表彰式、ハイライト・ビデオの上映、次回開催地のサンフランシスコ代表へ地球儀を渡すパッシング・ザ・グローブ、次回以降開催地のPRビデオ等けじめの付いたセレモニーが行われ、盛り上がった世界会議としての最後を締めくくった。

開会式、閉会式は、世界のVIPが参加し世界会議を象徴する重要な場である。今回の開会式、閉会式とも第

11 回 ITS 世界会議として次の 10 年へスタートするに
相応しい、記憶に残るものとなった。

2) 全体に貫かれたテーマと「安全 / 環境 / 利便」の 統一思想

今回のテーマは、「飛躍する移動— ITS for Livable Society」である。ITS により移動を飛躍させ、環境にやさしく住みよい社会を作る願いが込められている。ITS が、ユーザーの身近になり日常生活に浸透している現状を意識し、「社会」や「街づくり」を意識したテーマとなっている。今後の ITS の方向性を示唆し、今回の世界会議を象徴する ITS のトレンドに合ったテーマとなった。

従来世界会議全体にテーマの思想浸透が十分でないとの反省から、今回の世界会議では、ITS の目指すべき方向を「安全 / 環境 / 利便」とし、その思想をセッション等の構成に反映させる努力がなされた。セッション構成、ITS ワールド等でわかるように、世界会議全体が思想統一されるように細かい作り込みがなされた。

3) 「市民参加」コンセプトの導入で好評

今後の世界会議に新しい潮流を作ろうと「市民参加」コンセプトを打ち出した。2002 年シカゴ ITS 世界会議にて、ERTICO、ITS アメリカの代表と論議し、ITS の流れに沿ったコンセプトであるとの実感を得て今回の企画を煮詰めてきた。企画どおり参加者に ITS を身近に実感させることができ、従来にない特徴のある世界会議とすることができた。



展示会風景・市民参加
(ポートメッセ展示会場)

ITS の今後の 進展への 大きな節目

宮地淳夫

(国土交通省道路局 ITS 推進室長)



宮地淳夫氏

横浜で開かれた第 2 回
ITS 世界会議から 10 年
後の開催となった愛知・

名古屋 ITS 世界会議は、ITS の今後の進展を予感させる
大きな節目となるものでした。

この間、「踊り場」にあると言われつつも、日本の ITS は
着実に進展してきました。新車の 2 台に 1 台はカーナビ、
VICS を搭載して販売されており、ETC が一千万台を突
破するのも時間の問題となっています。我が国の ITS は、
世界でもトップレベルにあります。

これからの ITS は、個別に開発され普及してきたシス
テムが融合・連携し、私たちの生活を大きく変える「セカ
ンドステージ」へ飛躍すると考えられます。そのためには、
標準化や規格化により共通のプラットフォームが構築され
ねばなりません。

道路局では、スマートウェイ推進会議(豊田章一郎委員
長)の提言を受け、一つの車載器で多様なサービスが受け
られる車載プラットフォームを開発し、2007 年には本格
運用を開始することとしています。この車載プラットフォ
ームでは、ETC による有料道路の決済だけでなく、駐車
場をはじめとするあらゆるゲートのスムーズな通過、場所
やニーズに応じた地域ガイド、タイムリーな走行支援情報
など、新たな道路関連サービスが利用可能となります。

現在、プラットフォーム構築のための官民共同研究の準
備を進めており、12 月には共同研究者を民間から公募し
たところ。研究は 2 月から開始し、7 月には中間報告
をとりまとめ、2006 年には実配備を開始する予定です。

このような開発には産・学・官の連携が不可欠です。多
様な関係者の調整が今後も大きな課題であり、コーディネ
ーターの果たす役割が、ますます重要になるものと考えて
います。

(みやち・あつお)

現実の街並みを再現し、生活に浸透する ITS の実物を体験する「ITS ワールド」を始め、展示会の土日2日間延長開催、ショーケース市民見学会、市民企画イベント等多様な内容により「市民参加」の実現を図った。海外からも幅広い市民の参加について高い評価を得ており、サンフランシスコ等今後の世界会議でも、このようなコンセプトが続くことが期待されている。

4)「ITS ワールド」コンセプトの成功

「ITS ワールド」は、市民参加コンセプトを象徴する今回の目玉の一つであり、具体的に述べる。ITS 関係者から広くご意見をいただきながら ITS を理解してもらうための企画を煮詰めてきた。「ITS ワールド」は、ITS に関係する多くの民間系や政府系の関係組織による多大な協賛金のご支援により実現でき、深く感謝している。「ITS ワールド」は、世界会議史上に残る素晴らしい内容となり、関係者のご支援と熱意の賜物である。実物大の街並みに ITS を実存させ、ITS の仕組みをわかりやすく解説する「ジオラマシアター」、実際のクルマや交通機器、道路関係インフラ機器等でリアルな ITS を表現する「ITS シティ」、未来の ITS を示唆する「ITS ドリームシアター」、歩行者支援等で構成された。ガイドツアーによる説明で ITS 理解につながった。参加者から、ITS がよく理解できたと大変好評であり、この



テクニカルツアー風景

コンセプトが ITS 理解向上に貢献し、多くの参加者から ITS を身近に理解できる素晴らしい内容であったとの評価をいただいた。最終的にグループガイドツアー参加数 24,267 人、歩行者支援体験数 5,747 人で合計 30,014 人の参加者となった。

5) 充実したショーケース・テクニカルツアー

今回の企画の特徴のひとつに、ショーケース・テクニカルツアーがある。従来のテクニカルツアーは、ITS 関係施設見学が中心であったが、今回は、各コースに日本の最先端の IT & ITS のメニューを含む、きめの細かいコース設定となった。コース数も 23 コースと従来とは比較にならない数が準備され、内容も非常に見応えのあるものとなった。愛知県、名古屋地域の「ITS スマートタウン」ショーケース・テクニカルツアー、日本全国、およびソウル、北京、シンガポールの国内外を含むローカルツアーと多様なコース設定となった。このテクニカルツアーを通じて日本の IT & ITS を発信する企画は、その目的を十分に果たしたといえる。今回のテクニカルツアーは、ITS 関係省庁、地元政府系機関、地元関係組織等が幅広く関係し、日本の最先端の ITS 技術が体験できるツアーであり、従来にない内容の濃い取り組みであった。

6) 過去最高のレベルの充実した展示会

展示会は、250 企業・団体(国内 144、海外 106)、総小間数 945 (ITS ワールドを除く)と過去最高の出展状況となった。2004 年 ITS 世界会議の展示会は、ITS 企業・関係団体等が従来以上に力を入れていることが伝わってくる見応えのある内容であった。ITS 世界会議の展示会は、ITS に関係する企業・ITS 組織・団体・大学等が実際に ITS を PR する場であり、また、参加者にとっては ITS の状況を実際に体験できる貴重な場である。展示配置については参加者が見やすいように、自動車関係、情報通信関係、ITS 組織等同じ業種が集まる

ようにゾーニングした。迫力のある展示内容は、国内外のITS関係者、一般参加者に強烈なインパクトを与え、ITSが一層、弾みをつけて進展して行く勢いを、感じさせるのに十分な内容であった。

メッセージウェイと呼ぶ中央通路には、トヨタ博物館のご好意により、移動の歴史でもあるクラシックカーの展示を行い、F1カーの展示とともに会場全体を身近な雰囲気とし、展示会に親しみを感じてもらうことができた。

7) 大学からの参加が過去最高

今回の世界会議では、産・官・学のバランスのとれた展示を目指し、大学からの参加を働きかけてきた結果、20大学、50研究室という過去最高の参加を得た。地元大学も含めて全国からの参加があり、企業の展示にひけをとらない内容は迫力のあるものであった。ITS推進分野に学界の研究が広がっていることを感じさせ、ITSの推進における学の役割を再認識させることができた。

8) 地元の盛り上がり

2004年ITS世界会議は、地域に広がるITSを実際に示す世界会議であった。愛知県、名古屋市、豊田市等ITSに対する地元の盛り上がりを世界に印象付けることができた。10月17日の日曜日には、新設の徳川園ガーデンにて地元主催の歓迎ガーデンパーティが開催された。愛知県神田知事、名古屋市松原市長、日本組織委員会豊田会長を始め、ERTICO、ITSアメリカ等日・米・欧・

アジアのITS代表者が参加し、世界会議開催前夜の盛り上がりを見せた。

また、名古屋市の中心部のオアシス21で、10月19日から24日まで世界会議盛り上げイベントとして、ITSフェスティバルを開催した。地元の省庁出先機関、関連組織等関係者が実行委員会をつくり活動し、61.5万人の参加者を得た。地元が一体となって取り組んだ結果、素晴らしい成果を生むことができた。

9) 幅広い世界会議のマネジメント

ITS世界会議は、開会式、閉会式、歓迎レセプション等の多くの催事、展示会、セッション、テクニカルツアー、ゲストツアー等多彩な内容で構成される。10月20日には、台風23号が愛知県地域を直撃したが、運営組織機能を十分に発揮させ、早い決断により影響を最小限にとどめることができた。最近の国際情勢を考慮した危機管理、VIP接遇等の運営面の機能を発揮し、事故なく無事に終わることができた。多彩な内容の2004年ITS世界会議が、関係者の努力により、スムーズに運営され、長年の活動の集大成として誇れる内容で終了することができた。

さらなるITS発展に向けて

今回の2004年ITS世界会議の成果を一過性に終わらせることなく、今後実現して行く必要があり、この観点からITSの今後について下記にまとめる。



展示会風景

1) ITS 世界会議の更なる持続

今回の世界会議は、ITS ユーザーへの認知度の向上、今後の ITS 成長への期待、世界会議そのものの質の向上等を願い企画を煮詰めてきた。その結果、ITS 関係者の知恵を結集し歴史に残る世界会議とすることができた。世界会議が終了し国内外からのコメントは、いずれも今回の世界会議の狙いと内容の深さを評価するものであり、セカンドステージに入った ITS に相応しい結果を残すこととなった。今後 ITS を継続・発展させるために、今後の世界会議にどのように対応するのか、日本の ITS をどのように推進するのか、ITS の原点を踏まえつつ、今後のありかたを再構築しなければならない。

2) 「ITS 推進の指針」を生かして

今回の世界会議をきっかけに ITS Japan の呼びかけで日本 ITS 推進会議がまとめた「ITS 推進の指針」は、今回の「安全/環境/利便」の思想のベースであり、ITS の今後の指針とすべきものである。ITS は情報通信の進展と共に非常な速さで進んでいるが、世界会議で総括されたことを受け、ITS がスタートした原点を踏まえて今後の取り組みを具体化しなくてはならない。「スマートウェイ推進会議」など、ITS を推進する活動が拡大しているので、この勢いを弱めることなく推進することにより、世界会議の成果・意義を生かすように ITS 関係者が努力することが重要である。

3) 新しい「市民参加」コンセプト潮流の継続

今回の世界会議は、最終日が近づいても人が途絶えることはなかった。土日延長により多くの人が参加する機会を増やしたことは、市民参加コンセプトにも合致した。家族連れ、子供連れ等いままでの世界会議にはなかった会議風景に、改めて ITS の幅の広さとユーザーのための ITS であることを認識させた。この原点の再認識は、技術開発に忘れてはならないものである。今後の世界会



閉会式 (パッシング・ザ・グローブ)

議においても、このコンセプトが取り入れられることが期待される。

4) 充実した「ショーケース・テクニカルツアー」の実現

過去の施設見学を中心としたテクニカルツアーを基本的に変える内容であった。日本の ITS 技術を実際に体験できる、丁寧に企画された手作りのテクニカルツアーは今後の世界会議に影響を与えるものと思われる。ITS は、地域に広がり、ますます生活に身近になる。今回の取り組みを一過性に終わらせることなく、本物にすることが重要である。今後実現の方向に向けて関係者の一層のチャレンジが期待されている。

おわりに

多くの成果と将来の ITS への指針を残して世界会議が終了した。ITS を身近に感じさせ、多くの参加者に ITS への期待を持っていただいたことは大変貴重であり、今後の推進の原動力となる。産・官・学の連携を密にして、ITS の原点を踏まえて今後の ITS に弾みをつける必要がある。

そのためには、今回の世界会議を一過性のイベントに終わらせることなく現実化すること、ITS の将来に向けて人材の育成、国際性の醸成が不可欠である。2004 年 ITS 世界会議の結果は、ITS に関係する者すべての誇りとなった。このように成功裡に終了したことは、世界中の ITS 関係者の温かいご支援の賜物と深く感謝申し上げたい。そして我々関係者としては、今後の ITS のさらなる発展に向けて努力していきたい。

(いし・たろう)

当機構の取り組みのご報告

野原恒夫

(ITS 統括研究部調査役)

はじめに

日本での開催は 1995 年の横浜以来 9 年ぶり 2 回目となる第 11 回 ITS 世界会議が、2004 年 10 月 18 日 (月) から 24 日 (日) にかけて、愛知県名古屋市の“愛知芸術文化センター”及び“ポートメッセなごや”で開催されました。

今回の会議の理念として、「専門家だけでなく、広く一般市民にも開かれた会議・展示会とし、市民参加型の世界会議を目指す」ことが打ち出されました。

当機構としてもこの理念に沿って、従来以上に幅広く積極的に取り組みましたので、以下当機構の活動を中心に紹介します。

世界会議の概要

話の順序として、まず今回の世界会議の概要に若干触れますが、これについては別稿として日本組織委員会事務局局長・石太郎氏が主催者の立場から寄稿されておられますので、ここでは一参加者の視点からの感想などを主体に述べることにいたします。

①開会式

10 月 18 日 (月) 14:00 より、名古屋市中区栄の愛知芸術文化センターで行われた開会式では、ご臨席賜った秋篠宮殿下から「1995 年の横浜での世界会議にも出席しましたが、今回はその後約 10 年間の進歩が楽しみです」という趣旨のお言葉がありました。

9 年前の横浜会議時には VICS がようやく登場したばかりであり、ITS は全体としてまだまだ“揺籃期”に過ぎませんでした。カーナビ・ETC をはじめとする各

種 ITS の実用化・普及が進みつつある現況は、まさに殿下のご期待に十分お応えできるものであらうと思われま

②セッション

今回の世界会議では、開催テーマ「飛躍する移動——ITS for Livable Society」のもと、「安全 (Safety)」、「環境／持続性 (Sustainability)」、「利便 (Accessibility / Comfortability)」を 3 本の柱として分類・構成されたことが特徴であり、セッションもこの分類に沿って構成・実施されました。

◇Plenary Session (PL)

セッション冒頭に行われた PL1 では、東京大学名誉教授・月尾嘉男氏、WBCSD (持続可能な発展のための世界経済人会議) 会長・B. スティグソン氏、ITS カナダ会長・J. ラム氏、ERTICO 副会長・J. ヒューズ氏から、「安全」、「環境／持続性」、「利便」の 3 要素に関する基調講演が行われました。

また、セッションの締めくくりに位置づけられた PL3 では、ITS Japan 副会長・中原恒雄氏、EC 情報社会総局・A. ヴイツツ氏、米国運輸省国家道路交通安全局・R. メドフォード氏、GM 副社長・L. パーンズ氏が参加し、米・欧・亜の 3 極が連携して安全性向上に取り組む必要性が強調されました。

◇Executive Session (ES)、Special Session (SS)

ES では、PL1 を受けて、米・欧・亜 3 極の官民を代表するキーパーソンが 3 つの要素ごとに、さらに具体的なテーマにつき講演と討議を行いました。

また、SS では 3 極が分担して企画した 28 のセッション・テーマについて、それぞれの地域の動向を主体とした講演・討議が行われました。

◇ Scientific Session (SP)、Technical Session (TP)、Interactive Session (IS)

過去最多の 826 件の応募論文から採択された 705 の論文が、「統合情報システム・サービス」、「ナビゲーション・位置情報サービス」など“応用分野”を基準とする 14 のテーマに分かれ、計 104 のセッションで発表が行われました(但し、一部は台風のため中止)。

このうち TP 及び IS では、“研究・開発から実用化・普及へ”というステージの変化を反映し、実用化事例・市場分析・政策論・標準化などに関する発表が年々多くなってきています。

また、発表形式として、今回初めて“ポスターセッション (Interactive Session)”が採用され、発表者との身近な質疑や、実機での個別デモが可能などの点で好評を博しました。

③ 展示会

総計 250 の団体・企業(日本 144、海外 106)が出展しましたが、今回の特色として、地元の東海 3 県をはじめ多くの自治体及び自治体の関わる ITS 推進団体、さらに 20 大学・50 研究室という多数の大学が参加したことが挙げられます。

ことに大学は、技術展示と併せて会場の一角で独自の研究発表会を行うなど、ITS に対する並々ならぬ積極的な姿勢が窺われました。

④ テクニカルツアー

今回の世界会議では「市民参加型」と並んで「ITS 体験型」という理念が打ち出されたこともあって、それを具現化すべく、総計 23 コースという多様なテクニカルツアーコースが設定されました。

◇ 「ITS スマートタウン」ショーケース 10 コース

◇ 「ラボ/地域」ショーケース 13 コース

それぞれのコースは、いくつかの“ショーケース”(要素となる ITS サービス)で構成されますが、当機構はこ

れらのショーケースのいくつかについて企画・設置・運営に積極的に携わりました(詳細は後述)。

⑤ 閉会式

日本組織委員会の豊田会長は閉会挨拶の中で、「ITS の利用者は市民であり、市民参加型の世界会議という理念は正しかった」という趣旨の総括をされました。

閉会式はその後、世界会議のハイライトシーンを上映するビデオハイライト、今回から新たに採用したインタラクティブセッションの優秀作品の表彰式、次いで、恒例の“パッシング・オブ・ザ・グローブ”のセレモニーが行われ、最後に、次回(05 年)開催地のサンフランシスコ、06 年開催地のロンドン、07 年開催地の北京の PR 映像が流され、会議の幕が閉じられました。

HIDO の活動

今回の世界会議は、急テンポで開発・普及が進む ITS の実態を内外にアピールするとともに、今後の展開に向けて関連各界のみならず一般市民の理解・協力を得る絶好の機会と位置づけ、当機構としても、「展示出展」、「セッション発表」、「テクニカルツアーの企画・運営」などに積極的に取り組みました。

① 展示出展

当機構では、国土交通省の後援を受け、ORSE・JICE・AHSRA と共同で、これまでにない規模と内容の出展を行いました。

・ 展示面積：180 m² (12 m × 15 m)

[参考—前回マドリッド大会 (38.5 m²) の 5 倍弱]

・ 展示主題：「2007 年、ITS 社会の実現をめざして」

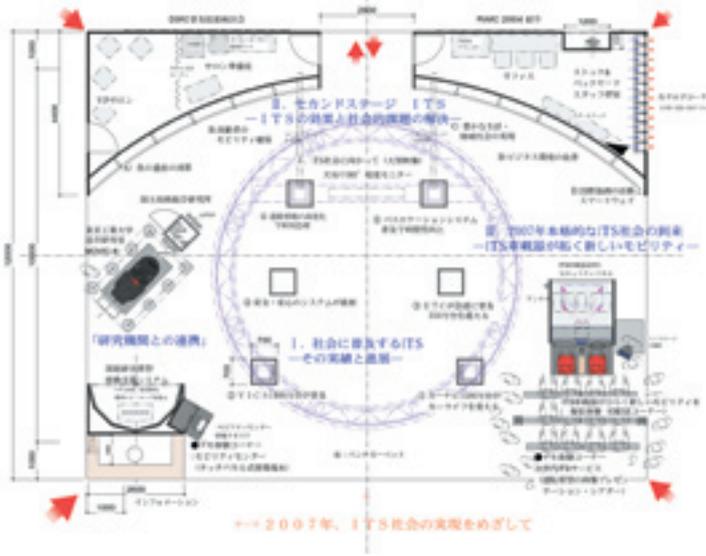
a) 社会に普及する ITS — その実績と進展

b) セカンドステージ ITS — ITS の効果と社会的課題の解決

c) 2007 年、本格的な ITS 社会の到来



HIDO ブースの平面配置図



具体的な展示物の構成と内容は以下のとおりです。

◇パネル展示

パネルでは、ブース中央部の6本の柱に、「社会に普及するITS—その実績と進展」と題して、カーナビ、VICS、ETCの普及状況などの事例を、さらに、ブースの背景を構成する壁面には「セカンドステージ ITS—ITSの効果と社会的課題の解決」をテーマに、事故・渋滞等の負の遺産の清算、高齢者のモビリティ確保、豊かな生活・地域社会の実現等を具体的な写真や図表を主体に展示しました。

◇大型映像モニター

ブース正面奥に設置した天吊りタイプ的大型モニター（90インチ）を使用し、「2007年本格的なITS社会の実現」と題する映像を放映し、近未来に実現される具体的なサービス事例をアピールしました。

◇次世代ITSサービス・デモ体験コーナー

クルマの運転席を模したシミュレーターにより、一つの車載器により可能となる多様なサービス（駐車場等のゲートの入退室管理と料金決済、走行支援情報サービス、地域ガイドサービス、シームレスな情報サービス）を体験できるコーナーを設置し人気を博しました。

◇大学・研究機関との連携

大学・研究機関との連携の具体例として、東工大・屋井研究室の「道路走行環境分析ツール（MOVIC-T4）」、及び「交通・環境マイクロシミュレーションシステム（ARTIST）」、そして、「国総研交通シミュレーター（SIPA）」を展示しました。

◇インフォメーションコーナー、i-モビセンター

ブースの正面左手に「インフォメーションコーナー」を設け、その横に、栄・オアシス21の「i-モビセンター」のものと同様な情報端末を設置し、世界会議や公共交通機関情報等を提供しました。

◇「ITS World」への協賛

「ITS World」は、主催者（日本組織委

員会）が市民参加コンセプトの目玉として企画し出展したものです。当機構では、この企画に賛同し、「ITS World」の設置・運営に対する協賛を行ったほか、この一角に設置された「自律移動支援プロジェクト体験コーナー」の展示・運営にも協力しました。

②セッション発表

今回の世界会議では、総計140余のセッションで800件を超える講演・論文発表が行われました（一部は



名城公園駐車場におけるDSRCアンテナ



上郷SAでのスマートIC実験風景

セッション発表

辻常務理事	セッション名：SS27〔テーマ：Development of DSRC Multiple Applications〕 発表内容：日本における DSRC 応用サービスの開発分野及び「DSRC 普及促進検討会」等の推進状況を紹介
高石研究員	セッション名：TP02〔テーマ：Bus Operations〕 発表内容：プローブカーシステムと連携したバスロケシステム、「本町バスの駅」などの、群馬県前橋市におけるバスロケシステムを紹介
遠藤調査役	セッション名：IS02〔テーマ：Traveller Services 2〕 発表内容：IC カードを利用した DSRC 駐車場入退室管理システム、料金決済システム等の開発状況を紹介

テクニカルツアー

1 名城公園駐車場	コース名：TT4 多目的 DSRC 体験ツアー ショーケース：「ETC 通信技術を活用したマルチサービス」 概要：次世代型 ITS 車載器を搭載し、DSRC による駐車場入庫管理システムの実証実験（サービス機能の向上、セキュリティ機能の実装）を実施
2 上郷 S A	コース名：TT2 「街の、路の、車の未来を探しに行こう！」体験ツアー ショーケース：「スマート IC と ETC 通信技術を活用したサービス」 概要：◇スマート IC — 出口専用のスマート IC を設置し、東名高速から豊田市内及びその周辺に向かう交通の分散と高速道路利用の利便性を向上◇情報提供サービス—インターネット接続で、交通・観光情報等を提供
3 栄・i-モビリティセンター	コース名：TT1 エコポイントと歩行者支援 I T S が導く環境・快適都市名古屋体験ツアー ショーケース：「i-モビリティセンター」 概要：人々の円滑な移動の実現と、公共交通機関の利便性の向上を目的として、バリアフリー、公共交通、道路交通、タウン・観光などの情報を提供
4 スマートパーキング	コース名：TT4 多目的 DSRC 体験ツアー ショーケース：「駐車場情報の高度化」 概要：リアルタイムな駐車場情報（満空、料金、入口等）を、携帯電話・パソコンで提供するほか、カーナビにより駐車場の検索・経路案内を実施
5 豊田市	コース名：TT2 「街の、路の、車の未来を探しに行こう！」体験ツアー ショーケース：「総合情報提供システム」 概要：道路交通、公共交通、観光・地域、バリアフリー情報等を提供
6 岡山県	コース名：LT8 IT 先進県 岡山の地域 ITS 体験ツアー 概要：a) 路面状況自動検知システム、リアルタイム路上工事規制情報システム b) 多数のバス事業者を統一した、バスロケーションシステム c) “道路管理共有システム” を活用し、様々な情報を提供するポータルサイト

台風のため中止)。当機構からも上表のように、辻常務理事・高石研究員・遠藤調査役の3名が論文発表を行いました。

③テクニカルツアー

今回は総計 23 コース（海外 3 コースを含む）と多様なコースが設定されましたが、当機構では上表のように、このテクニカルツアーを構成する“ショーケース”のいくつかについて、国土技術政策総合研究所・各地方整備局等とともに、その企画・設置・運営等に携わりました。

おわりに

期間中 20 日（水）には、思わぬ台風の襲来で全ての行事が中止されるというアクシデントに見舞われたにもか

かわらず、一般来場者が 6 万名を超え、市民参加の目玉である「ITS World」の入場者が 3 万名を超える盛況を示したことは、「市民参加型の世界会議」という当初のねらいが十分達成されるとともに、今後の世界会議の在り方に大きなエポックを画する会議となったと言ってもよいと思われます。

また、セッション及び展示を通じて、いまや、ITS が本格的な実用化・普及期を迎え、交通社会の変革に貢献するステージに入りつつあることを、アピールすることができたのではないかと考えられます。

こうした中であって、ITS に関連する産・官・学連携の中核機関として当機構が果たすべき役割は、今後とも益々大きく重くなっていくであろうことを痛感させられました。

（のはら・つねお）